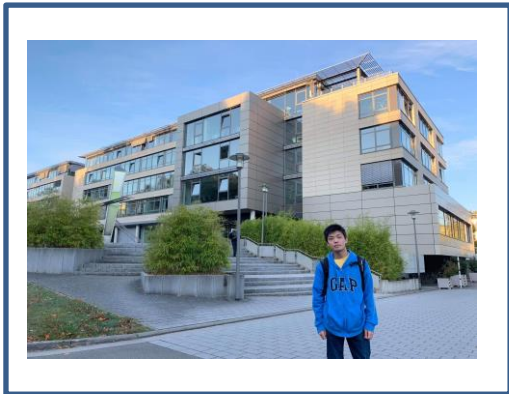


OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students

プロフィール (Profile)



氏名 (Name) 丸市 賢功
所属 (School) 工学域 電気電子系学類
学年 (Grade) 4年生

留学先 (Name of overseas institution)
ドイツ人工知能研究センター

留学期間 (study abroad period)
2018/10/14~2019/3/20

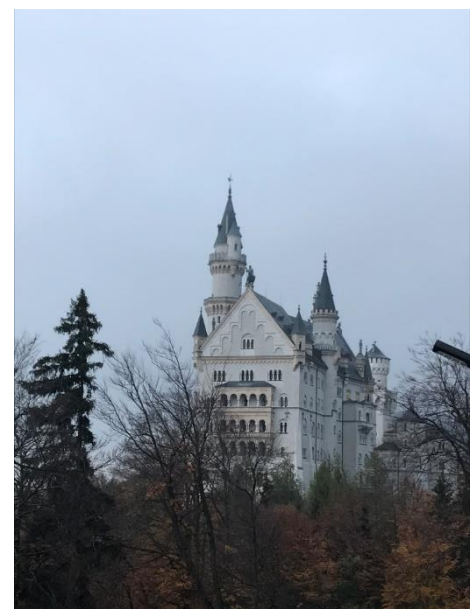
留学レポート Study Abroad Report

JASSO 海外留学支援制度を利用して、2018/10/14~2019/3/20 の約半年間、ドイツ・カイザースラウテルンにあるドイツ人工知能研究センターヘインターンシップに行きまして参りました。現地では、近年注目を集めている人工知能技術を用いて、人々の「学び」の効果を向上させることをテーマに研究開発を行いました。私自身、海外での生活は初めてという訳ではなかったのですが、ヨーロッパに渡航するのは初めてで、渡航前には少し不安がありました。特に、私はそれまでドイツ語を勉強したことがなく、留学が決まってから少し勉強した程度だったので、現地の方ときちんとコミュニケーションがとれるかどうか心配でした。しかし、ドイツの、特にカイザースラウテルンに住んでおられる方々は近くに米軍基地があるので英語も堪能で、日常で使われている会話程度の英語ならばほとんどの方が理解してくれました。ただ、英語が通じなかったこともあったので、不安であれば少し勉強しておくと思いいます。また、困った場合は積極的に周りの人に助けを求めてみましょう。英語に自信がある人がいれば、助けてくれる場合が多かったです。

ドイツでの生活についてお話しします。気候については、留学期間がちょうど冬にあたっていたので、少し肌寒かったです。セーターやダウンを用意しておくといいでしょう。現地の友人によると、どうやら平年よりは暖かかったようです。ただ厚着でいくと建物に入ると暖房が十分に効いているので、脱ぎ着できるような服装で行くことをお勧めします。

食事については、美味しいことは美味しいので最初のうちは食べられるのですが、レパートリーが少なく味もこってりしているので、日本食が恋しくなることがあります。そんなときにはアジア食料品店を利用しましょう。ドイツにはアジア系の移民も数多く住んでおられるので町の中心部には必ずと言っていいほどアジア食料品店があります。数は少ないですが日本の調味料が手に入ります。ドイツには数多くの日本人が住んでおられるので知り合っておくともいいかもしれません。彼らのネットワークで食料品が手に入ることもあります。その他注意点として、レストランを除くほとんどのお店は日曜日には閉まるので、必要なものは平日や土曜日のうちに買いだめしておきましょう。私自身、ドイツに到着した初日が日曜日でお店がどこもあいておらず、苦労しました。

休日に時間があれば旅行に行くことを強くお勧めします。私は旅行に行った先で写真を撮るのが趣味なので、休日はよく旅行に行っていました。ドイツの町は教会のある旧市街を中心としており、そこに駅やお店、そして観光地が集中しているので、1日あれば1つの町の観光スポットを全て回ることができます。路面電車が発達しているので、利用するとより効率よく楽に回れます。時間が余ったときには科学館や美術館に行ってみました。科学館ではドイツの技術を結集した飛行機や自動車を見ることができました。学芸員のレベルも高く、説明がとても難しかったので、もう一度物理や数学を勉強したいと思うようになりました。



美術館では、ゴッホやモネなどの皆さんが一度は見たことがある名画がそれぞれの町に散らばって展示されていきました。偶然立ち寄った美術館で、意外な名画に出会うこともよくありました。また日本とは異なり、写真撮影が可能な美術品もあるので、一緒に撮っておくとインスタ映えすると思います。

旅行に行ってみてドイツには古い建物がどの町にも残っていることに気がきました。空襲によって壊された建物も修復して残してありました。石造りであることや地震がないことも理由として考えられますが、建物以外でも、古いものを修理して大切に残しているというような印象を持ちました。技術先進国でありながら古いものも大切にしているドイツ人の意外な国民性が垣間見えた体験でした。私はこれまで壊れたものは修理せずすぐに買い替えるようにしてきたのですが、この体験を通して、修理できそうなものはすぐにはあきらめず自分で修理してみようと思うようになりました。

まとまった休暇が取れた時には国外に旅行に行ったりもしていました。ヨーロッパは陸続きになっているので、国と国との距離感がとても近く EU 加盟国であれば入国審査なしで移動することができます。通貨も同じなので両替をする必要もありません。交通機関も電車やバス一本で行けたりするので、それぞれの国というよりはヨーロッパという 1 つの国であるような印象を受けました。しかし、国が変われば言葉や国民性も少しずつ違うということに気付かされます。例えば、困ったことがあったときに、ドイツであれば、周りの人に自分の状況を伝えて助けを求めれば親切に助けてくれるのですが、イギリスではその必要はなく困っていることを察して積極的に関わろうとしてくれるという印象的な体験がありました。この点に関しては、私はイギリスの人々のように困った人を積極的に助けられるような人になりたいと思いました。



旅行に行く際の注意点としては、きちんと計画を立てておくことです。ドイツ人は計画性を重んじる国民性なので、長距離の電車やバスに乗るには必ず予約が必要です。直前に予約をとることもできますがその場合には先に予約していた場合の倍以上の値段がかかります。また雪や強風による事故も多いので、電車の遅延やホームの変更もかなりの頻度で起こります。時間には余裕をもって計画を立てるようにしましょう。また、ドイツはヨーロッパの中では治安が良いのですが、それでも治安が良いとは言えません。周りの人を頼らざるを得なくなった場合でも人を選んで助けを求めましょう。町で呼びかけられた際も、言葉が分からないのであれば応答するのはあまり良いとは言えません。十分気をつけてください。

研究については、英語が通じたので大きな問題はありませんでした。研究チームのメンバーとはコミュニケーションをとっておくと研究が行き詰ったときに良いアドバイスをもらえます。私はあまりコミュニケーション能力が高い方ではないので、一人で研究に没頭しがちだったのですが、もう少しコミュニケーションをとっておけば良かったと後悔しています。また、大きな研究所だったので来客も多く、その方々が英語で講演してくれることもありました。同じ分野で最先端の研究をしている人と知り合えることは私にとって大きな刺激になりました。研究に加えて、ソフトウェアの開発にも携わることができ、プログラミング能力の向上を図ることもできました。私はこれまであまり他人とプログラミングの技術を競うことはやってこなかったのですが、これからはそのようなコンペにも積極的に参加していきたいと思っています。

留学を迷っている人へのアドバイスとしては、迷っているならとりあえず行ってみた方がいいと思います。行ってみれば意外となんとかなるものです。困ったときは周りの人に助けを求めてみましょう。そうすることでその人との交流が生まれ、助けられることの有難みを感じることができるようになります。また、その困ったことを解決した経験が、就活や将来の仕事に生きてくることもあるかもしれません。勇気を出して行ってみましょう。

最後に、この度の私の留学に際し、多大なご支援を賜りました大阪府立大学・ドイツ人工知能研究センターの両関係の諸先生方、学生方に厚く御礼申し上げます。